

令和 6 年度 厚生労働科学研究費補助金
(食品の安全確保推進研究事業)

分担研究報告書

飲料水中の有機リン化合物の実態調査

研究代表者 徳村 雅弘 静岡県立大学 助教

研究要旨：

有機リン化合物はプラスチックの難燃剤や可塑剤として使用され、室内空気やハウスダストを介した曝露が主要とされている。一方、近年、我が国においてウォーターサーバーを設置し常飲する家庭が急増しているが、海外の事例では、その水中から水道水と比較して高い濃度の有機リン化合物が検出されたことが報告されている。

飲料水は調理過程にて加熱されることがあり、また、COVID-19の影響から、紫外線照射などの化学反応を伴う浄水器も普及し始めている。有機リン化合物は、加熱や光照射により置換基の脱離など、非意図的变化体を生成し、毒性が向上する場合もある。

本研究では、飲料水に含まれる有機リン化合物の分析方法の精緻化および汚染実態調査を行う。また、非意図的变化体についても測定・毒性試験（アセチルコリンエステラーゼ阻害能評価）を行う。以上により、多様化する飲料水中の有機リン化合物に対し、優先的に取り組みを進めるべき物質や広く事業者がリスク低減に取り組めるような提案を行うことを目的とする。

本分担課題では、開発した飲料水中濃度レベルにおける有機リン化合物の一斉分析法を用いて、ウォーターサーバーおよび浄水器を通した水中の有機リン化合物の分析を行った。本研究で測定対象とした有機リン化合物19種類のうち、4種の化合物がウォーターサーバーの水から検出頻度50%以上で検出され、濃度の中央値が高い順にtriphenyl phosphine oxide (TPhPO) (150 ng L^{-1})、tris(2-chloroethyl) phosphate (TCEP) (65 ng L^{-1})、tris(2-chloroisopropyl) phosphate (TCPP) (24 ng L^{-1})、tributyl phosphate (TBP) (1.6 ng L^{-1})であった。一方、浄水器でろ過した水からは測定対象とした有機リン化合物 19 種類のうち、10種類の有機リン化合物が検出された。なかでもtris(2-ethylhexyl) phosphate (TEHP) (410 ng L^{-1})、TCEP (280 ng L^{-1})、tris(1,3-dichloro-2-propyl) phosphate (TDCPP) (270 ng L^{-1})、が比較的高濃度で検出された。ウォーターサーバーおよび浄水器を通した水中の有機リン化合物濃度より推定一日摂取量を推算してハザード比を求めたところ、本研究で対象としたすべての有機リン化合物は 10^{-4} から 10^{-6} の値となった。

A. 研究目的

有機リン化合物はプラスチックの難燃剤や可塑剤として使用され、室内空気やハウスダストを介した曝露が主要とされている¹。一方、近年、我が国においてウォーターサーバーを設置し常飲する家庭が急増しているが、海外の事例では、参照用量は下回っている者の、その水中から 170,000 ng L⁻¹ を超える濃度（水道水：0.1–100 ng L⁻¹）の有機リン化合物が検出されることが報告されている¹。

飲料水は調理過程にて加熱されることがあり、また、COVID-19の影響から、紫外線照射などの化学反応を伴う浄水器も普及し始めている²。有機リン化合物は、加熱や光照射により置換基の脱離など、非意図的变化体を生成し、毒性が向上する場合もある³。

本分担課題では、飲料水に含まれる有機リン化合物の汚染実態調査を行うことを目的とする。

B. 研究方法

B.1. 有機リン化合物の汚染実態調査

B.1.1. 使用器具・試薬

Trimethyl phosphate（TMP），triethyl phosphate（TEP），tributyl phosphate（TBP），tris(2-chloroethyl) phosphate（TCEP），tris(1,3-dichloro-2-propyl) phosphate（TDCPP），tris(butoxyethyl) phosphate（TBOEP），tris(2-ethylhexyl) phosphate（TEHP），triphenyl phosphate（TPhP），cresyl diphenyl phosphate（CsDPhP），tricresyl phosphate（TCsP），2-ethylhexyl diphenyl phosphate（EHDPHP）は東京化成工業（東京都）から購入した。Triphenyl phosphine oxide（TPhPO），tris(2-chloroisopropyl) phosphate（TCPP），tripropyl phosphate（TPP）は富士フィルム和光純薬株

式会社（大阪府）から購入した。6-Benzylbenzo[c][2,1] benzoxaphosphinine 6-oxide（BzIDPO）は三光株式会社（大阪府）より購入した。Naphthalen-2-yl diphenyl phosphate（NDPhP）はBiosynth AG（スイス）より購入した。5-Ethyl-2-methyl-2-oxido-1,3,2-dioxaphosphorinan-5-yl methyl methylphosphonate（PMMMP）とbis[(5-ethyl-2-methyl-2-oxido-1,3,2-dioxaphosphinan-5-yl) methyl] methylphosphonate（BPMMP）はMatrix Scientific（USA）より購入した。2,2-Bis(chloromethyl)-propane-1,3-diyltetrakis(2-chloroethyl) bisphosphate（V6）はToronto Research Chemicals（カナダ）より購入した。TBP-*d*₂₇，TCEP-*d*₁₂，TPhP-*d*₁₅，TCsP-*d*₂₁，TEHP-*d*₅₁は林純薬工業株式会社（大阪府）から購入した。

アセトニトリルはシグマアルドリッチジャパン合同会社（東京都）から購入した。アセトン，トルエン，ヘキサン，酢酸エチルは富士フィルム和光純薬株式会社（大阪府）から購入した。すべての実験で、Milli-Q水（Merck Millipore社）を使用した。

B.1.2. サンプル情報

静岡県の商業施設や住宅に設置された31台のウォーターサーバーから水サンプル（100 mL）をガラス瓶に採取した（Table 1）。また、浄水器を通した水については、9台の浄水器を対象とした（Table 2）。サンプリング前にはガラス瓶をアセトンとヘキサンの洗剤で洗淨し、電気炉にて500℃で5時間加熱して、自然冷却した。

B.1.3. 分析方法

本研究で測定対象とした有機リン化合物をTable 3に示す。また、有機リン化合物の物

性値についてはTable 4に示す⁴。

水サンプル100 mLと酢酸エチル：ヘキサン（1:1, v/v）100 mL、クリーンアップスパイク（d体mix4種：TPhP-*d*₁₅, TEHP-*d*₅₁, TCsP-*d*₂₁, TCEP-*d*₁₂）を分液漏斗に加え、振とう機で30分間振とうした。有機層をナスフラスコに移し、エバポレーターでおよそ1 mLまで濃縮した。窒素パージで約80 µLまで濃縮した後、アセトニトリルで溶媒置換し、シリンジスパイクとしてTBP-*d*₂₇を20 µL加え、最終液量を100 µLとした。有機リン化合物の分析には、液体クロマトグラフ-タンデム型質量分析計（LC-MS/MS：TSQ Endura Thermo Fisher Scientific）を使用して測定した。イオン化法には大気圧化学イオン化（APCI）法を用いた。詳細な分析条件はTable 5と6に示す。

B.1.4. 経口曝露量の推算方法

以下の式から一日あたりの曝露量を推測した。

$$EDI = \frac{C \times DC \times AP}{BW}$$

ここで、*EDI* は推定一日摂取量（ng kg-bw⁻¹ day⁻¹）、*C* は飲料水中の有機リン化合物濃度（ng L⁻¹）、*DC* は飲料水の日平均摂取量（mL day⁻¹）、*AP* は吸収率、*BW* は体重（kg-bw）を表している。本研究では、一日平均摂取量として1957 mL⁵、体重として60.5 kgを用いた⁶。吸収率については安全側の評価を行うため100%とした。

ハザード比を求めるための式を下記に示す。

$$HQ = \frac{EDI}{RfD}$$

ここで、*HQ* はハザード比（-）、*RfD* は参照用量（ng kg-bw⁻¹ day⁻¹）を表している。

C. 研究結果および考察

C.1. 有機リン化合物の汚染実態調査

C.1.1. 飲料水中の有機リン化合物の濃度

ウォーターサーバーの水サンプル中の有機リン化合物濃度のまとめをFigure 1に示す。ウォーターサーバーの水からは測定対象とした有機リン化合物19種類のうち、4種類の有機リン化合物が検出頻度50%以上で検出された。特に濃度が高かった有機リン化合物は、TPhPO（中央値：150 ng L⁻¹）であり、次にTCEP（65 ng L⁻¹）、TCPP（24 ng L⁻¹）、TBP（1.6 ng L⁻¹）が続いた。

浄水器を通した水からは測定対象とした有機リン化合物19種類のうち、10種類の有機リン化合物が検出された（Figure 2）。特に濃度が高かった有機リン化合物は、TEHP（410 ng L⁻¹）であり、次にTCEP（280 ng L⁻¹）、TDCPP（270 ng L⁻¹）が続いた。

C.1.2. 飲料水中の有機リン化合物の曝露評価

飲料水中の有機リン化合物の曝露量の推算結果と既往研究⁶⁻⁸との比較をFigure 3に示す。*EDI* は、TPhPO および TCEP, TCPP, TBP で、4.9 および 2.1, 0.78, 0.052 ng kg-bw⁻¹ day⁻¹であった。これらの結果より、ウォーターサーバーからの飲料水の摂取がヒトへの有機リン化合物曝露の重要な曝露経路となる可能性が示唆された。*EDI* から推算した本研究で対象としたすべての有機リン化合物の*HQ* は10⁻⁴から10⁻⁶の値となった。

浄水器を通した水に含まれる有機リン化合物の*EDI* は、TEHP および TCEP, TDCPP で、13 および 8.9, 8.8 ng kg-bw⁻¹ day⁻¹であった（Figure 4）。これらの結果より、浄水器を通した水の摂取もヒトへの有機リン化合物曝露の重要な曝露経路となる可能性が示唆された。*EDI* から推算した本研究で対象としたすべての有機リン化合物の*HQ* は10⁻⁴

から 10^{-6} の値となった。

D. 結論

飲料水中の有機リン系化合物の測定法を開発した。飲料水としてウォーターサーバーの水中の有機リン化合物濃度を測定した結果、特に検出頻度と濃度が高かったのは、TPhPO, TCEP, TCPP, TBP であった。EDI から推算した HQ は 10^{-4} から 10^{-6} の値となった。

浄水器を通した水中の有機リン化合物濃度については、TEHP, TCEP, TDCPP が比較的高濃度で検出されたが、それぞれの EDI から推算した HQ は 10^{-4} から 10^{-6} の値となった。

E. 参考文献

- 1 Hou, M.; Shi, Y.; Na, G.; Zhao, Z.; Cai, Y. Increased Human Exposure to Organophosphate Esters via Ingestion of Drinking Water from Water Dispensers: Sources, Influencing Factors, and Exposure Assessment. *Environmental Science & Technology Letters* **2021**.
- (2) 日本紫外線水処理技術協会一般社団法人. ニュースレター No.13.
- (3) Yao, C.; Yang, H.; Li, Y. A Review on Organophosphate Flame Retardants in the Environment: Occurrence, Accumulation, Metabolism and Toxicity. *Sci. Total Environ.* **2021**, 795, 148837.
- (4) Ohno, K.; Asami, M.; Matsui, Y. Is the Default of 2 Liters for Daily Per-Capita Water Consumption Appropriate? A Nationwide Survey Reveals Water Intake in Japan. *J. Water Health* **2018**, 16 (4), 562–573.
- (5) 厚生労働省. 令和元年国民健康・栄養調査報告.

- (6) Lee, S.; Jeong, W.; Kannan, K.; Moon, H.-B. Occurrence and Exposure Assessment of Organophosphate Flame Retardants (OPFRs) through the Consumption of Drinking Water in Korea. *Water Res.* **2016**, 103 (Supplement C), 182–188.
- (7) Zhang, X.; Zou, W.; Mu, L.; Chen, Y.; Ren, C.; Hu, X.; Zhou, Q. Rice Ingestion Is a Major Pathway for Human Exposure to Organophosphate Flame Retardants (OPFRs) in China. *J. Hazard. Mater.* **2016**, 318, 686–693.
- (8) Cequier, E.; Ionas, A. C.; Covaci, A.; Marcé, R. M.; Becher, G.; Thomsen, C. Occurrence of a Broad Range of Legacy and Emerging Flame Retardants in Indoor Environments in Norway. *Environ. Sci. Technol.* **2014**, 48 (12), 6827–6835.
- (9) EPA. *EPI Suite ver.4.11*.

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

G.1. 論文発表

- 1) Tsugumi Uchida, Masahiro Tokumura, Qi Wang, Kazushi Noro, Takashi Amagai, Masakazu Makino, Occurrence and risk assessment of organophosphorus esters in drinking water collected from water dispenser systems in Japan, Science of The Total Environment, in press, 2025.
- 2) Yuna Nishiyama, Masahiro Tokumura, Qi Wang, Takashi Amagai, Masakazu Makino, Dermal Exposure to Organophosphorus Compounds in Home Video Game Controllers, Environment & Health, in press, 2025.

(2024年7月)

G.2. 学会発表

- 1) 内田 亜美, 徳村 雅弘, 王 斉, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史, 牧野 正和, ウォーターサーバーの飲料水中に含まれる有機リン化合物の汚染実態調査とその汚染要因の検討, 2024年室内環境学会学術大会, 札幌. (2024年12月)
- 2) 西山 裕那, 石田 真穂, 徳村 雅弘, 澤井 淳, 山本 潤, 戸田 美沙, 羽山 真介, 山口 夏純, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史, 牧野 正和, 有機リン化合物の主要な曝露経路特定に向けたバイオモニタリングによる曝露量評価, 2024年室内環境学会学術大会, 札幌. (2024年12月)
- 3) 西山 裕那, 石田 真穂, 徳村 雅弘, 澤井 淳, 山本 潤, 戸田 美沙, 羽山 真介, 山口 夏純, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史, 牧野 正和, 自動車シートに含まれる有機リン化合物の経皮曝露評価～in vitro試験およびバイオモニタリングによる評価～, 第3回環境化学物質合同大会, 広島. (2024年7月)
- 4) 内田 亜美, 徳村 雅弘, 王 斉, 野呂 和嗣, 雨谷 敬史, 牧野 正和, ウォーターサーバーの飲料水中に含まれる有機リン化合物の汚染要因の検討, 第3回環境化学物質合同大会, 広島.

G.3. 市民向け説明会

- 1) 環境サマースクール2024 「環境浄化と食品,化粧品の意外な関係」, 2024年8月2日(金), 静岡, 約40名, 静岡県立大学, 教員及びサマースクールの受講者(高校生)

G.4. 業界関係者向け説明会

- 1) プラスチック製品中難燃剤の経皮曝露を含めたヒト健康リスク評価, 2024年11月29日(金), 神戸, 約100名, 臭素化学懇話会, ハロゲンに関する商品を扱っている企業の研究者や大学関係者

H. 知的財産権の出願・登録状況

H.1. 特許取得

なし

H.2. 実用新案登録

なし

H.3. その他(受賞)

- 1) 公益社団法人 自動車技術会 大学院研究奨励賞, 石田 真穂

Table 1 ウォーターサーバーに関する情報

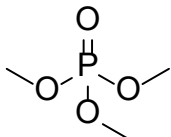
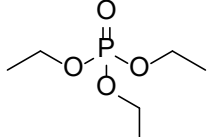
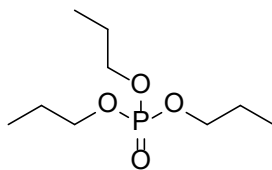
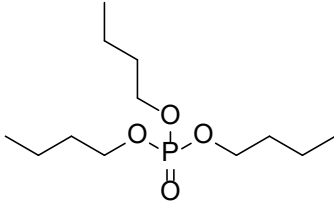
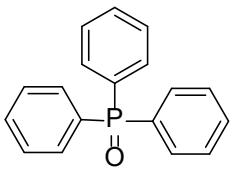
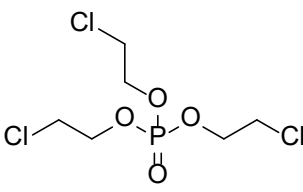
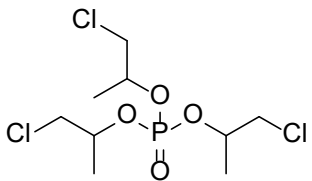
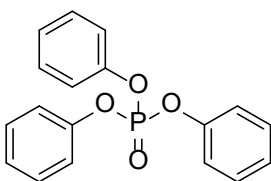
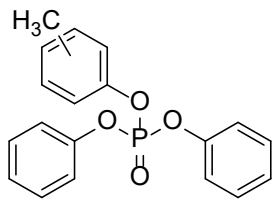
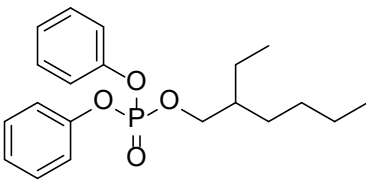
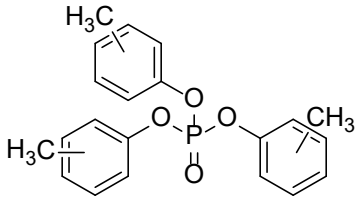
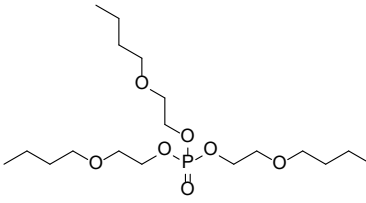
No.	形式	ボトル水 / 源水	製造国	使用 年数
1	リターナブル	ナチュラルミネラル ウォーター	韓国	1 年
2	リターナブル	ナチュラルミネラル ウォーター	韓国	2 年
3	リターナブル	ナチュラルミネラル ウォーター	韓国	2 年
4	リターナブル	ボトルドウォーター	韓国	2 年
5	リターナブル	ボトルドウォーター	韓国	0.75 年
6	リターナブル	ボトルドウォーター	韓国	3 年
7	リターナブル	ナチュラルミネラル ウォーター	韓国	0.25 年
8	リターナブル	ナチュラルミネラル ウォーター	韓国	-
9	リターナブル	ナチュラルミネラル ウォーター	韓国	1.5 年
10	リターナブル	ナチュラルミネラル ウォーター	韓国	-
11	リターナブル	ナチュラルミネラル ウォーター	韓国	-
12	リターナブル	ナチュラルミネラル ウォーター	韓国	-
13	リターナブル	ミネラルウォーター	韓国	-
14	リターナブル	ミネラルウォーター	韓国	5 年
15	リターナブル	ミネラルウォーター	韓国	-
16	リターナブル	ミネラルウォーター	日本	-
17	リターナブル	ミネラルウォーター	日本	-
18	リターナブル	-	韓国	1 年
19	ワンウェイ	ナチュラルミネラル ウォーター	韓国	3 年
20	ワンウェイ	ナチュラルミネラル ウォーター	韓国	3 年
21	ワンウェイ	ナチュラルミネラル ウォーター	韓国	3 年

22	ワンウェイ	ナチュラルミネラル ウォーター	韓国	3 年
23	ワンウェイ	ナチュラルミネラル ウォーター	中国	3 年
24	ワンウェイ	ナチュラルミネラル ウォーター	中国	-
25	浄水	水道水	韓国	-
26	浄水	水道水	韓国	0.08 年
27	浄水	水道水	韓国	0.25 年
28	浄水	水道水	韓国	-
29	浄水	水道水	韓国	8 年
30	浄水	水道水	-	-
31	浄水	水道水	-	1 年

Table 2 ウォーターサーバーに関する情報

No.	製造国	材料の種類	ろ材の種類	その他の特徴
1-1	日本	ABS 樹脂	中空糸膜 (PE), セラミック, 活性炭	-
1-2	日本	スチロール樹脂, ポリアセタール, 多孔質平膜 (PVA), シリコーン, ニトリルゴム, EPDM	活性炭, サンゴ化石, 亜硫酸カルシウム	-
1-3	日本	スチロール樹脂, ABS 樹脂, エラストマー樹脂, 合成ゴム	ヤシ殻活性炭, 亜硫酸カルシウム, トルマリン鉱石, 不織布	-
2-1	日本	ABS 樹脂	不織布, 活性炭, セラミック, 中空糸膜	-
2-2	日本	ABS 樹脂	中空糸膜 (PE), 活性炭	-
2-3	日本	ABS 樹脂	中空糸膜 (PE), セラミック, 活性炭	-
2-4	中国	ABS 樹脂, ポリアセタール, シリコーン, ステンレス	活性炭, PVA, 不織布	-
2-5	日本	ABS 樹脂, POM 樹脂, EPDM, ステンレス, セラミック	活性炭, 不織布	-
2-6	中国	-	活性炭, 亜硫酸カルシウム, 不織布	UV 抗菌技術

Table 3 本研究にて測定対象とした有機リン化合物のリスト

	化学構造		化学構造
trimethyl phosphate TMP		triethyl phosphate TEP	
tripropyl phosphate TPP		tributyl phosphate TBP	
triphenyl phosphine oxide TPhPO		tris(2- chloroethyl) phosphate TCEP	
tris(2- chloroisopropyl) phosphate TCPP		triphenyl phosphate TPhP	
cresyl diphenyl phosphate CsDPhP		2-ethylhexyl diphenyl phosphate EHDPhP	
tricresyl phosphate TCsP		tris(butoxyethyl) phosphate TBOEP	

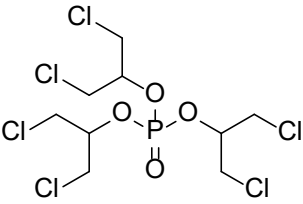
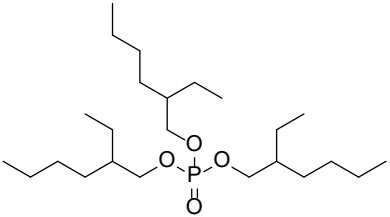
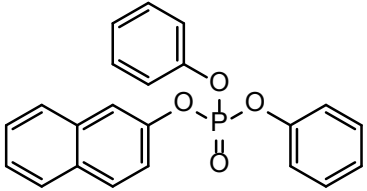
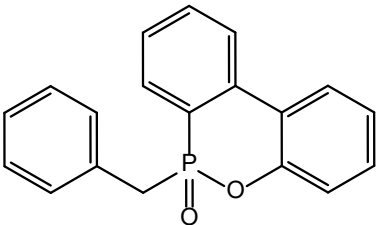
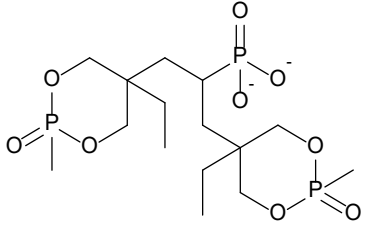
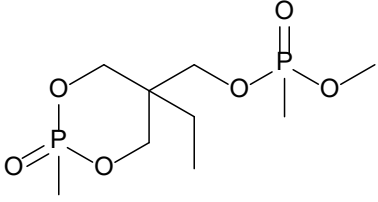
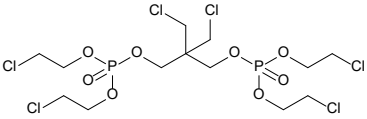
tris(1,3-dichloro-2-propyl) phosphate TDCPP		tris(2-ethylhexyl) phosphate TEHP	
naphthalen-2-yl diphenyl phosphate NDPhP		6-benzylbenzo[c][2,1]benzoxaphosphine 6-oxide BzIDOPO	
bis[(5-ethyl-2-methyl-2-oxido-1,3,2-dioxaphosphinan-5-yl) methyl] methylphosphonate BPMMP		(5-ethyl-2-methyl-2-oxido-1,3,2-dioxaphosphinan-5-yl) methyl methylphosphonate PMMMP	
2,2-bis(chloromethyl)-propane-1,3-diyltetrakis(2-chloroethyl) bisphosphate V6			

Table 4 本研究にて測定対象とした有機リン化合物の物性値⁹

	CAS	化学式	分子量	融点 (°C)	沸点 (°C)	LogK _{ow}	蒸気圧 (Pa, at 25°C)
TMP	512-56-1	C ₃ H ₉ O ₄ P	140.08	-30.61 (-46)	174.19 (197.2)	-0.60 (-0.65)	55.3 (113)
TEP	78-40-0	C ₆ H ₁₅ O ₄ P	182.16	3.54 (-56.4)	233.27 (215.5)	0.87 (0.80)	22 (52.4)
TPP	513-08-6	C ₉ H ₂₁ O ₄ P	224.23	26.84	284.22 (252)	2.35 (1.87)	3.08
TBP	126-73-8	C ₁₂ H ₂₇ O ₄ P	266.32	64.73 (-79)	327.03 (289)	3.82 (4.00)	0.466 (0.151)
TPhPO	56803-37-3	C ₁₈ H ₁₅ OP	278.29	86.97 (156.5)	405.10 (>360)	2.87 (2.83)	3.76×10 ⁻⁵ (3.47×10 ⁻⁷)
TCEP	115-96-8	C ₆ H ₁₂ Cl ₃ O ₄ P	285.49	82.99 (-35)	351.67 (330)	1.63 (1.44)	0.0522 (8.17)
TCPP	13674-84-5	C ₉ H ₁₈ Cl ₃ O ₄ P	327.57	72.27 (-40)	365.49 (>270)	2.89 (2.59)	0.00753
TPhP	115-86-6	C ₁₈ H ₁₅ O ₄ P	326.29	86.50 (50.5)	441.27 (245)	4.70 (4.59)	6.29×10 ⁻⁵ (8.37×10 ⁻⁴)
CsDPhP	26444-49-5	C ₁₉ H ₁₇ O ₄ P	340.32	87.63	452.87	5.25 (4.51)	1.39×10 ⁻⁵ (6.27×10 ⁻⁴)
EHDPhP	1241-94-7	C ₂₀ H ₂₇ O ₄ P	362.41	86.66 (-54)	442.95 (375)	6.30 (5.73)	0.00445 (6.67×10 ⁻³)
TCsP	1330-78-5	C ₂₁ H ₂₁ O ₄ P	368.37	89.89 (-33)	476.06 (265)	6.34 (5.11)	1.62 (8.00×10 ⁻⁵)
TBOEP	78-51-3	C ₁₈ H ₃₉ O ₇ P	398.48	85.78 (-70)	433.84 (221)	3.00 (3.75)	0.000165
TDCPP	13674-87-8	C ₉ H ₁₅ Cl ₆ O ₄ P	430.91	88.20 (27)	458.73 (236-237)	3.65 (3.65)	- (3.82×10 ⁻⁵)
TEHP	78-42-2	C ₂₄ H ₅₁ O ₄ P	434.65	86.99 (-74)	446.31 (215)	- (9.49)	8.09×10 ⁻⁵ (1.10×10 ⁻⁵)
NDPhP	18872-49-6	C ₂₂ H ₁₇ O ₄ P	376.35	90.27	480.00	- (5.88)	2.74×10 ⁻⁶
BzIDOPO	113504-81-7	C ₁₉ H ₁₅ O ₂ P	306.30	-	-	-	-
BPMMP	42595-45-9	C ₁₅ H ₃₁ O ₉ P ₃	448.33	90.27	480.00	- (0.06)	2.74×10 ⁻⁶
PMMMP	41203-81-0	C ₉ H ₂₀ O ₆ P ₂	286.20	85.46	356.94	- (-0.26)	- (0.00284)
V6	38051-10-4	C ₁₃ H ₂₄ Cl ₆ O ₈ P ₂	583.00	90.27	480.00	3.31	- (2.74×10 ⁻⁶)

※カッコ内の数字は実測値を示す

Table 5 LC-MS/MS 分析条件

HPLC		
Instrument	Ultimate 3000 LC Systems (Thermo Scientific)	
Column	Accucore Vanquish C18 (100 mm×φ2.1 mm, 1.5 μm)	
Mobile	Solvent A: water	
	Solvent B: 20% acetonitrile/methanol	
Flow rate	0.3 mL min ⁻¹	
Column oven temperature	50°C	
Injection volume	2 μL	
Gradient	0~0.5 min	A:95%, B:5%
	~7.0 min	B:100%
	~15 min	B:100%
	~15.1 min	A:95%, B:5%
	~17 min	A:95%, B:5%
MS/MS		
Instrument	TSQ Endura (Thermo Scientific)	
Ionization mode	APCI	
Polarity	APCI (+)	
Positive ion discharge current	4 μA	
Negative ion discharge current	4 μA	
Seath gas (Arbitrary unit)	25	
Aux gas (Arbitrary unit)	5	
Sweep gas (Arbitrary unit)	0	
Ion transfer tube temp	250°C	
Vaporizer temp	300°C	

Table 6 有機リン系化合物のLC-MS/MSの分析条件（イオン化法：APCI）

Compound	Start Time (min)	End Time (min)	Polarity	Precursor (<i>m/z</i>)	Product (<i>m/z</i>)	Collision Energy (V)	RF Lens (V)
TMP	1	4	Positive	141.025	79.217	23	69
	1	4	Positive	141.025	109.086	18	69
TEP	3	7	Positive	183.102	81.129	39	73
	3	7	Positive	183.102	99.114	20	73
TPP	5	8	Positive	225.12	81.191	46	74
	5	8	Positive	225.12	99.116	20	74
TBP	6	9	Positive	267.175	81.155	53	76
	6	9	Positive	267.175	99.088	19	76
TPhPO	5	8	Positive	279.11	77.214	48	148
	5	8	Positive	279.11	201.036	28	148
TCEP	4.5	7	Positive	286.953	81.123	57	97
	4.5	7	Positive	286.953	99.089	26	97
	4.5	7	Positive	286.953	125.06	19	97
TCPP	5	8	Positive	327.002	81.142	59	97
	5	8	Positive	327.002	81.142	59	97
	5	8	Positive	327.002	99.119	25	97
TPhP	6	9	Positive	327.14	215.205	28	166
	6	9	Positive	327.14	250.98	28	166
CsDPhP	6	9	Positive	341.076	152.084	39	114
	6	9	Positive	341.076	229.033	29	114
EHDPHP	7	10	Positive	363.15	77.226	45	88
	7	10	Positive	363.15	251.019	12	88
TCsP	6.5	9.5	Positive	369.12	165.074	44	142
	6.5	9.5	Positive	369.12	243.028	30	142
TBOEP	6	9	Positive	399.225	57.304	25	141
	6	9	Positive	399.225	99.094	30	141
	6	9	Positive	399.225	143.052	21	141
TDCPP	6	8.5	Positive	430.875	75.113	46	109

	6	8.5	Positive	430.875	77.237	44	109
	6	8.5	Positive	430.875	81.153	51	109
	6	8.5	Positive	430.875	99.101	28	109
TEHP	8.5	11.5	Positive	435.327	71.186	22	116
	8.5	11.5	Positive	435.327	81.145	58	116
	8.5	11.5	Positive	435.327	99.107	19	116
NDPhP	6	9	Positive	377.211	127.058	42	140
	6	9	Positive	377.211	202	34	140
	6	9	Positive	377.211	203.032	25	140
BzIDOPo	5	8	Positive	306.971	91.169	31	126
	5	8	Positive	306.971	198.946	25	126
	5	8	Positive	306.971	214.946	24	126
BPMMP	3	6	Positive	449.151	97.097	44	157
	3	6	Positive	449.151	177.058	25	157
	3	6	Positive	449.151	273	20	157
PMMMP	2.5	5.5	Positive	287.031	97.111	26	116
	2.5	5.5	Positive	287.031	135	23	116
	2.5	5.5	Positive	287.031	177	16	116
V6	5.5	8.5	Positive	583.774	359.817	17	164
	5.5	8.5	Positive	583.774	361.817	18	164
TEHP- d_{51}	8.5	11.5	Positive	486.654	102.146	22	108
	8.5	11.5	Positive	486.654	103.134	18	108
	8.5	11.5	Positive	486.654	82.28	24	144
TCsP- d_{21}	6.5	9.5	Positive	390.225	173.1	45	138
	6.5	9.5	Positive	390.225	175.137	36	138
	6.5	9.5	Positive	390.225	254.199	35	138
	6.5	9.5	Positive	390.225	255.114	33	138
TPhP- d_{15}	6	9	Positive	342.151	82.25	43	109
	6	9	Positive	342.151	159.108	44	109
	6	9	Positive	342.151	160.138	44	109
TBP- d_{27}	6	9	Positive	294.325	82.151	59	94

	6	9	Positive	294.325	83.173	59	94
	6	9	Positive	294.325	102.099	22	94
TCEP- d_{12}	4.5	7	Positive	299.001	67.275	27	108
	4.5	7	Positive	299.001	69.621	27	108
	4.5	7	Positive	299.001	102.103	28	108
TCPP- d_{18}	5	8	Positive	345.151	102.04	23.298	153
	5	8	Positive	345.151	183	13.236	153

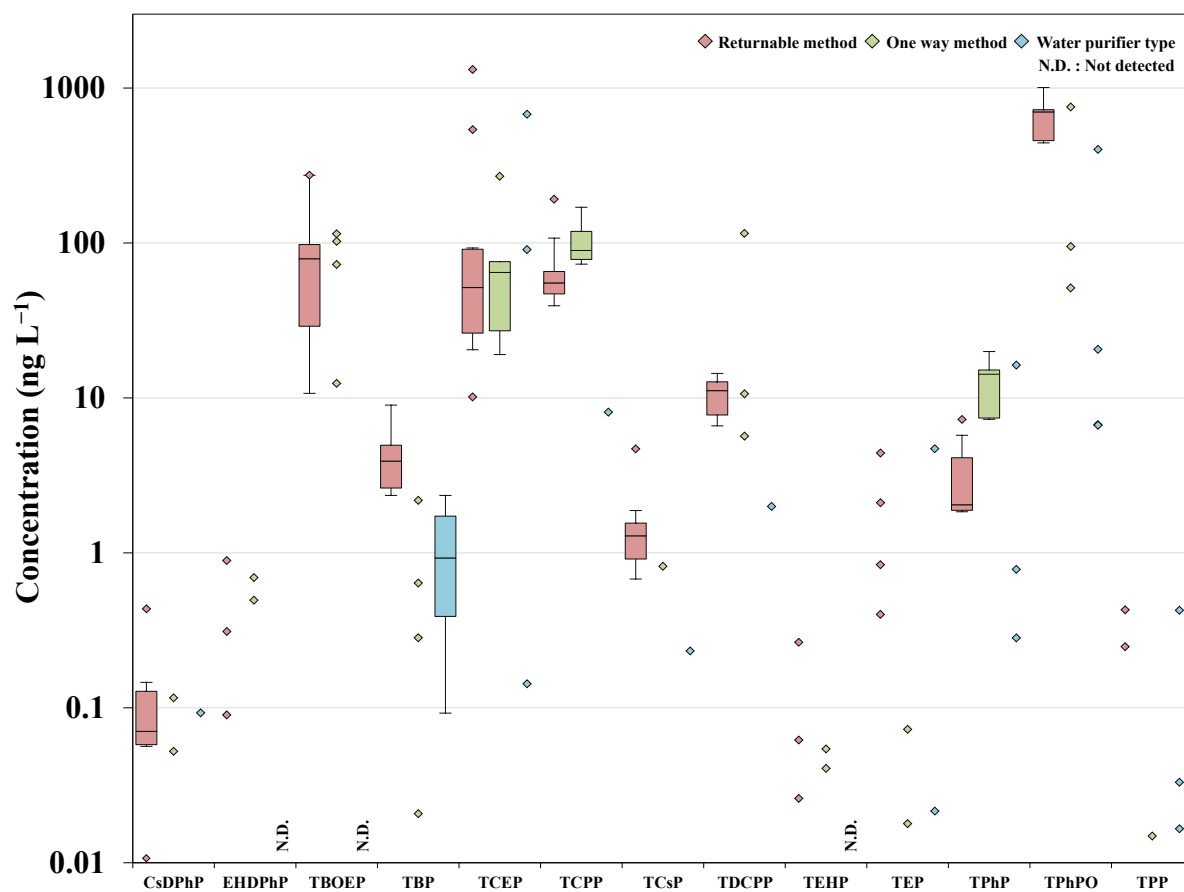


Figure 1 ウォーターサーバーの水に含まれる有機リン化合物の濃度 (ng L⁻¹)

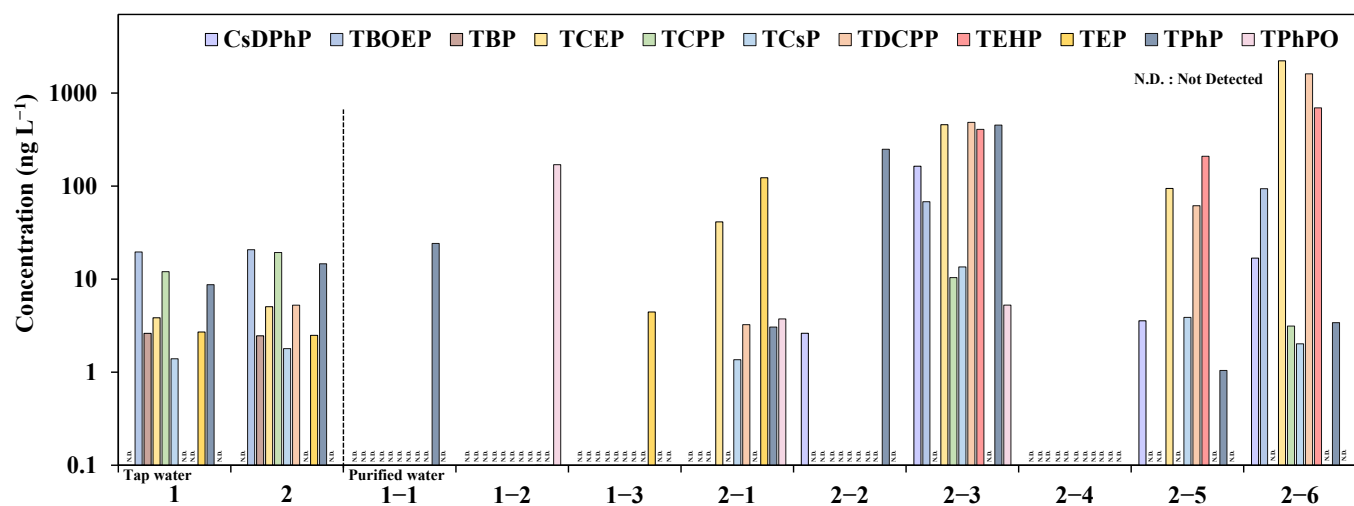


Figure 2 浄水器を通した水に含まれる有機リン化合物の濃度 (ng L⁻¹)

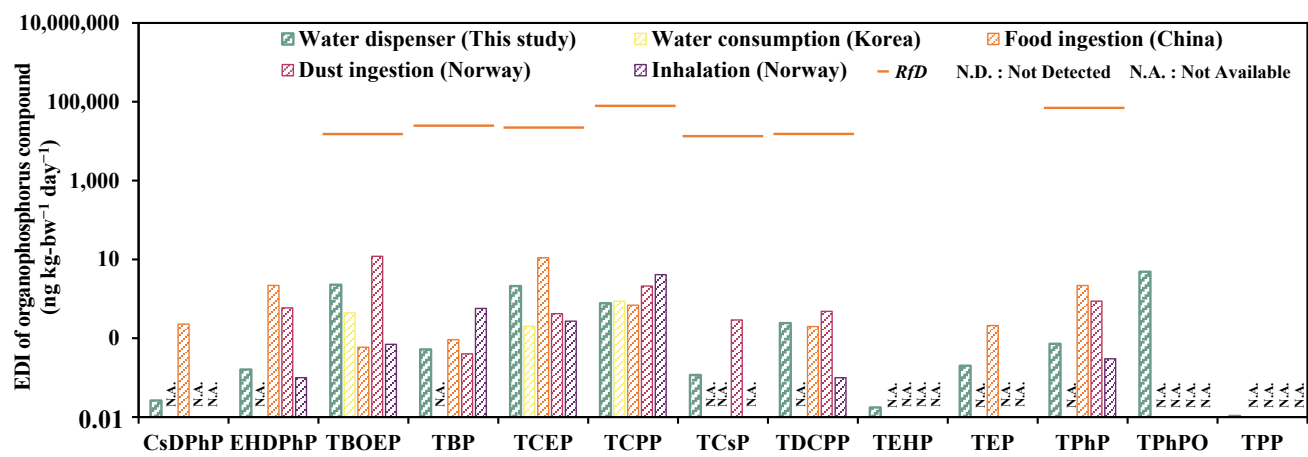


Figure 3 ウォーターサーバーの水の摂取に伴う有機リン化合物の曝露量とその比較⁶⁻⁸

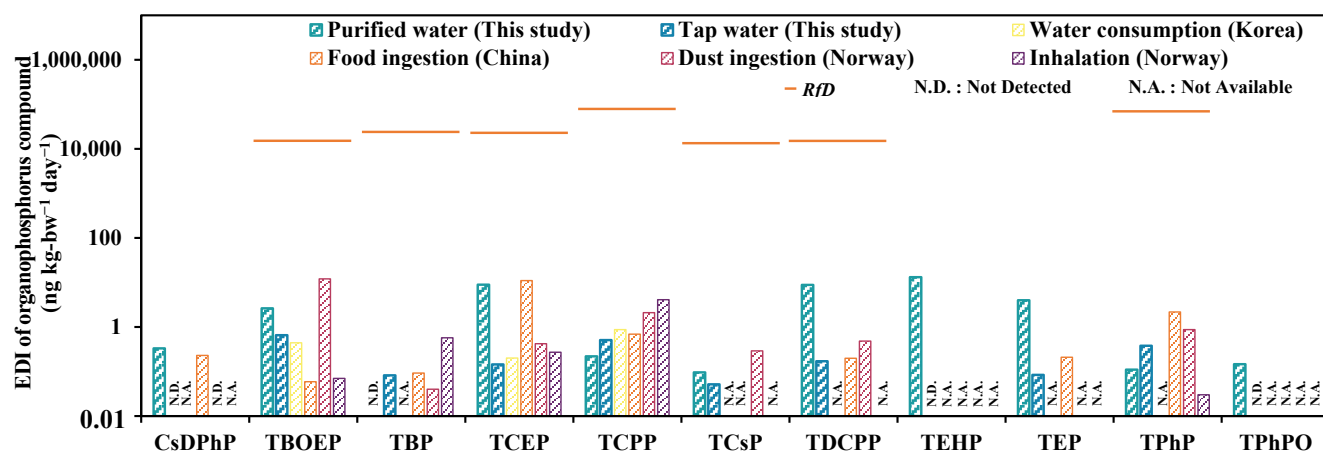


Figure 4 浄水器を通した水の摂取に伴う有機リン化合物の曝露量とその比較⁶⁻⁸